

令和4年度子どもゆめ基金

「病院や児童福祉施設の子どもたちが 自己肯定感を高めるあそび・交流ワークショップ体験」

報告書



コロナ禍が長引き、病気で入院している子どもや、虐待など家庭の事情で児童福祉施設にいる子どもは、これまで以上に制限された生活を送り、あそぶことや新たな出会いや体験、気持ちを発散する機会が失われ、心身の成長発達が著しく危惧される。どんな状況にあっても子どもの成長発達と生きる力にはあそびの体験が必要だ。安心して自分を表現し、楽しくて希望につながるあそびと交流の体験を届けて、子ども自己肯定感を高める。

主催：特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター

〒260-0031 千葉市中央区新千葉2-17-6 サンコート新千葉102号

TEL：043-301-7262 FAX：043-301-7263

Email:kidchiba@lily.ocn.ne.jp URL <https://chiba.gekijou.org/>

後援：千葉県 千葉市 千葉県教育委員会 千葉県医師会 千葉県小児科医会

ワーク実施一覧 1-8 病院・児童相談所

	施設名	実施日時 実施場所	プログラム 指導者	指導者	協力者	子ども	大人	参加総数	参加人数内訳
1	国府台病院	10月28日(金) 9:30~11:30 院内学級運動場 小学校教室	「わくわく工作 オンリーワンを作ろう！」 濱美幸 恩田奈央子 波多陽子 竹見麻衣子	4	4	29	11	40	子ども29人(小学生4 中学25)大人9人(教師)地域ボランティア2人
2	市川児童相談所	8月26日(金) 10:00~12:00 2F 講堂	「見たこともない生き物をつくろう」 永野むつみ 大沢直 中村幸恵 大森智恵子	4	2	33	6	39	子ども33人(幼児7 小学生13 中学11 高校2)大人6人
3	東上総児童相談所	8月31日(水) 13:00~15:00 多目的ホール	「BB モフランのアフリカンパーカッション」 モフラン ダウディ 典子 椎名好子	4	2	21	6	27	子ども21人(幼児6 小学生15) 大人6
4	中央児童相談所	9月13日(火) 13:00~15:00 4階多目的室	「ダンスワークショップ」 安西真幸 安西千紗 大塚るい 中川香子	4	2	50	14	64	1回目 子ども18人(幼児13 小学女子1 高校女子4) 大人9人(教師・指導者) 2回目 子ども32人(小学~中学女子15 小学~高校男子17) 大人5人(教師・指導者)
5	柏児童相談所	10月12日(水) 13:00~15:00 2階ホール&所 庭	「からだをつかっていっしょにあそぼう」 大潤弘幸 森恭次郎 棚田純子 中村幸恵	4	2	20	4	24	子ども20人(低学年8 高学年11 中学生1) 大人4人(職員)
6	銚子児童相談所	10月13日(木) 13:00~15:00 2階会議室	「見たこともない生き物をつくろう」 永野むつみ 大沢直 綿貫のばら 宇野京子	4	2	7	6	13	子ども7人(幼児4 中学2 高校1) 大人6人(職員)
7	君津児童相談所	10月18日(火) 13:30~15:30 2F 会議室	「ダンスワークショップ」 安西真幸 安西千紗 白鳥みゆき 棚田純子	4	2	12	9	21	子ども12人(小学生9 中学生3) 大人9人(職員 教員等)
8	千葉市児童相談所(千葉市東部児相)	11月21日(月) 9:30~11:30 スポーツルーム	ダンスワークショップ 安西真幸 安西千紗 綿貫のばら 大塚るい	4	2	41	3	44	子ども41人(低学年14 高学年27) 大人3人(職員)



ワーク実施一覧 9-18 児童福祉施設

	施設名	実施日時 実施場所	プログラム 指導者	指導者	協力者	子ども	大人	参加総数	参加人数内訳
9	(社福)大成会 障害児入所 施設不二学園	8月6日(土) 9:00~11:00 食堂ステージ	「みて!きいて!つくって あそぼう!」 飯野真子 松本祐子 清水裕美子 廣瀬節子	4	3	10	3	13	子ども10人(小学4 年~6年6 中学2高 校2) 大人3人(職 員)
10	(社福)翠耀会 放課後等デイ サービスグリー ンヒルキッ ズ(3教室)	8月23日(火) 13:15~15:15 八千代市ふれ あいプラザ体育 館	「みんなで踊ろう ロック ソーラン」 野村圭子 小野孝子 杉山三香子 棚田純子	4	2	22	9	31	子ども22人 (小 学生18 中学生4) 大人9人(施設スタ ッフ)
11	(社福)児童 愛護会 児 童養護施設 一宮学園	10月2日(日) 13:30~15:30 体育館	「からだをつかっていっし よにあそぼう」 大潤弘幸 岡本圭 棚田純子 鈴木佳子	4	2	14	8	22	子ども14人(小学生 13、中学生1) 大人8人(職員7 研 修生1)
12	放課後等デイ サービス ア フタースク ールセンタ ーむぎ畑	10月7日(金) 13:00~15:00	「夏のクラフトタイム☆遊 ぼう!飾ろ」 荒居文子 大越舞美 大塚るい 白鳥みゆき	4	0	6	6	12	子ども6人 大人6人
13	(社福)チルド レン・パラダイ ス 児童養護施 設子山ホーム	10月30日(日) 13:00~15:00 集会室・戸外	「体をつかっていっしよに あそぼう」 大潤弘幸 森恭次郎 白鳥みゆき 綿貫のぼら	4	2	16	5	21	子ども16人 (男 子10 女子6) 大人5人
14	(特)いちかわ市 民文化ネット ワーク放課後等 デイサービス・ ハクナマタ	11月14日(月) 15:00~17:00 活動ルーム	「革のアクセサリをつく ろう」 井澤智子 斯波優江 北川妙子 楠千枝子	4	2	11	5	16	子ども11人(中学 高校) 大人5
15	(特)みのり福 祉会 児童デ イサービス そら	12月10日(土) 13:00~15:00 2F	「クリスマス工作」 加川きみ子 北野美子 梶原留理子 市川淑江	4	2	12	3	15	子ども12人 (小学 生7 中学3高校2) 大人3人(施設管理 者1 保育士2)
16	(社福)一粒会 児童養護施 設 野の花 の家	12月11日 13:30~15:30 ホール	「からだをつかっていっし よにあそぼう!」 大潤弘幸 岡本圭 鈴木佳子 宇野京子	4	2	15	10	25	子ども15人(幼児 小学生) 大人10人
17	(社福)鳳雄会 児童養護施 設ほうゆう・ キッズホーム	12月27日(火) 13:30~15:30 地域交流室	「おはなしくろう!工作 しよう!」 大崎あけみ 岡田泰子 大塚るい 宇野京子	4	2	19	7	26	子ども19人(幼児 小学生) 大人8人
18	(社福)一粒会 児童発達支 援事業所 「結」	2022年 2月13日(月) 9:00~11:00	「ふわふわどうぶつさんと あそぼ!」 加形ふみ子 宮下佳子 買場都明 斯波優江	4	2	7	5	12	子ども7人(幼児) 大人5人
	合計			72	36	345	120	465	



1. 国立国際医療研究センター国府台病院「わくわく工作!オンラインワンを作ろう!」

日時：2022年10月28日（金）10:10～12:10
 場所：院内学級の運動場と教室
 参加者 40人
 （子ども29人 病院関係者9人 ボランティア指導者2人）
 指導者：濱美幸 恩田奈央子 波多陽子 竹見麻衣子

ワークショップの内容
 キラキラビー玉の万華鏡
 革細工
 スポンジケーキ

友達、先生、指導者と相談しあい、談笑しながら好きな材料を選んで楽しそうに作成していた。遅れて来た子どももすぐにその場にとけ込んで、意欲的に作品を作った。ビー玉の作り方の説明を聞き、たき火や燻製の世間ばなしをして盛り上がりつつあった。長い皮を体にまきつけて「ふんどし」を作った小学生は、足りない長さをヒモでつなぎ、帯をつけて、何とか最後に完成させた。大きい皮を何枚もはいでカバンを作った小学生は、最後はガムテープで不足部分を補っていた。固い皮もあり、イメージ通りに完成させることがむずかしい場面もあったが工夫したり、スポンジケーキをたくさん作って、満足そうだった。



子どもの声

- ・たくさんの革やビーズがあって、楽しかった。
- ・貴重な体験ができ、楽しかった。思い出が増えた。
- ・革に触れて工作するきかいなんてないのでとても楽しかった。
- ・面白かった。作品をほめてもらえてめちゃめちゃうれしかったです!!

施設関係者の声

- ・子どもの関心が広がった。自分の得意とするものから次のものへとチャレンジしてみようという気持ちが生まれるようになったと思う。
- ・他の人の作品を見て褒めたり褒められたり、自己肯定感が向上したと思われる生徒や児童の笑顔がたくさん見られた。



2. 市川児童相談所「見たこともない生き物をつくろう」

日時：2022年8月26日（金）10:00～12:00
 場所：2F 講堂
 参加者 39人
 （子ども33人 施設関係者6人）
 指導者：永野むつみ 大沢直 中村幸恵 大森智恵子

ワークショップの内容
 ・3分間人形劇「ダンスが好き
 な女の子」
 ・様々な材料を使って生き物
 をつくる ・見せ合い交流

人形劇、切り紙の人形が増えていくのを見て「組体操みたい」。好きな色の紙封筒を意外にさっと選んだ。おにぎりの様にくちゃくちゃに丸めるといって、「えー! できない」きれいなものという表情。一度広げてまたくちゃくちゃにしてね。今度はほとんどの子ができ、ちょっと気持ちが解放された。説明中も、前のめりに立ち上がる男子4~5人。すぐにテープつけたり自分の世界に没頭した。生き物が形になってきて、トントンとスタッフの背中をたたき作品を見せて「楽しい」と言っていた。「踏まないでー」と尻尾を長くつけて走りまわる子ども。発表で「人形の名は、竜宮のつかい、ハッピーを食べて空を飛ぶ。」とうれしそうなお顔もあった。



子どもの声

- ・おさかなばくばくたのしかった。
- ・思っていた以上にうまくできてうれしかった。またやりたい。
- ・ちょうちんあんこうをイメージして作って、光る所を工夫して、出来は良かった。お魚作りは楽しかった
- ・いろんなかたちはさみとか いろんなのがあったのしかった。オルゴールのおたんじょうびのうた やさしかったです。もういっかいやりたいです。

施設関係者の声

- ・初めて見る、触るものが多く、強く興味を引かれていた。「何でも自由に、好きに使ってよい」という時間は、特別感が大きい。自己顕示が少ない子ども、制作物を職員にうれしそうに見せ、褒めてもらい喜んでいました!!(自己肯定感につながっていると思う)



3. 東上総児童相談所「BB モフランのアフリカンパーカッション」

日時：2022年8月31日（水）13:00～15:00

場所：多目的ホール

参加者 27人

（子ども21人 施設関係者6人）

指導者：モフラン ダウディ 典子 椎名好子

ワークショップの内容

マラカスづくり

アフリカの音楽 ダンス

アフリカの太鼓の体験



幼児は、楽器作りで紙コップのマラカスにたくさんシールを貼り、振って音が出ると笑顔がでた。丸いシールの中に目や口を書いて顔にしている「かわいい!!」と褒められるて嬉しそう。女子はラップの芯でのパーカッション作り。「みんな一緒だね!!」と笑顔。演奏で、リズムに乗って作った楽器を振って参加。太鼓体験、「こうやって叩くんだよ」とモフランがたたく手をジーッと見ている男児。上手に叩けて、自分でパチパチと拍手した。男子チームはノリノリの子が場を盛り上げリズムのスピードが上がり、しっかりついていってたたき「すばらしい!!」と褒められ大喜び。ダンスでは前に出て、張り切って踊ってはじめていた。

子どもの声

- ・たのしかった。おわらいげいにんとおもった。
- ・たいこをたたいたり、楽器を作ったりしてすごく楽しかった!!うたを聞いている時、本当に物語の中にはいっているような気持ちになった。
- ・曲のリズムがすごく楽しくて、心の中でリズムにのってた。
- ・これを機に色々な国の色々な楽器、音楽と関わられたらいいなと思う。

施設関係者の声

- ・音に合わせてダンスをしたり、音楽に触れることでいやされること、自分のおどりを認めてもらうことでQOL向上につながったと思う。
- ・初めて楽器をさわった子も、そうでない子も、音を出しときに「上手!!」「グッド!」と明るくほめてもらっていたので、自己肯定感の向上につながったと思う。
- ・普段と違う経験をすることで、幼児一人一人の良い刺激になったと思う。



4. 中央児童相談所「ダンスワークショップ」

日時：2022年9月13日（火）13:00～15:00

場所：4F 多目的室

参加者 64人

（子ども50人 施設関係者14人）

指導者：安西真幸 安西千紗 大塚るい 中川香子

ワークショップの内容

準備運動でいろいろな動き

YOASOBI「ツバメ」や

「habit」に子どもの言葉

でふりつけ、発表



幼児はのびのびと、大人にじゃれたり準備体操も声をだしながら、うさぎの様にぴょんぴょんとんだ。高校生女子も笑顔がたくさん。日常の行動がダンスの振りに変わっていきわかりやすく、小学生も一生懸命に踊った。体がほぐれて、「久しぶりに側転やる」とやり始める男子小学生もいた。2人で背中合わせで立つ動作が成功してハイタッチして楽しそう。小さな成功体験があちこちで見られた。ダンスの振り付けが「なっとうねばねば」「かゆい、かゆい」に笑う男子もかわいい。中学1年男子があいさつで「ダンスは苦手だったが、楽しかった」と話した。安西さんも「ナイス!俺、スゲーと思った。みんなのダンス観て自分もしあわせになった」と話した。

子どもの声

- ・元気が出た。
- ・発表は苦手、それ以上におどる楽しさやダンスのカッコよさがすごく伝わった。
- ・みんなと楽しくおどってわらって、いっしょうけんめいがんばった。
- ・運動は自信がないけど、ダンスをしているうちにだんだん自信がわいてきた。達成感につつまれた。
- ・勇気ももらってがんばるぞ!という気持ちが出てきた。
- ・まあちゃんみたいにキレッキレなダンスを踊れるようにがんばりたい。

施設関係者の声

- ・指導者が子どもたちの声を拾って応援してくれ、子どもたちは頑張ろうという気持ちになった。子どもたち同士でも褒め合う姿がみられ、“できた!”という達成感や自己肯定感が得られた。



5. 柏児童相談所「からだをつかっていっしょにあそぼう」

日時：2022年10月12日（水）13:00～15:00

場所：2F ホール&所庭

参加者 24人

（子ども20人 施設関係者4人）

指導者：大潤弘幸 森恭次郎 棚田純子 中村幸恵

ワークショップの内容

いろおに 震源地はだれだ なり
きりかくれんぼ 紙コップけん玉
お手玉こま回し だるまさんがころ
んだ おにごっこ

いろおに「おにさんおにさん何色ですか?」の掛け声を3回目くらいから、思いつ切り声が出て部屋中に響き、おもしろくてたまらないという表情だった。説明をしようと大潤さんが、「ちょっと離れて離れて」と言っても、離れない。どんどん近づく子どもたち。「本物のけん玉でもできるよ」と、手作りでも技を披露してくれた子もいた。外でこま回し、さっきまでの声が静まり、真剣。紐をまいて「アンダースロー」と、教えてもらったように言いながら何度もやった。学童でやったことある。と、うまく回せる子、うまくいかず悔しがる子も何度も挑戦していた。だるまさんがころんだで、ストップのポーズがユニーク。寝転んだり、手をあげたり、機敏に動いた。

子どもの声

・一番楽しかったのはコマ回し。まくのにコツがあって、「アンダースロー」といいながら回した。2番目はリーダーさがし。リーダーのマネをしてがんばった。3番目はけん玉。私は魔かいぞうをした。とてもたのしいおもいでになった。またきてください。
・ぼくはむかしのあそびがぜんぜん知らなかったから知れてよかったし、楽しかった。

施設関係者の声

- ・学校にも行けないし、限られたスペースで、様々な制約の中での生活なので、今日は、思いつ切り遊べて楽しかった。
- ・子ども達、職員ともとても楽しく過ごせた。ありがとうございました。



6. 銚子児童相談所「見たこともない生き物をつくろう」

日時：2022年10月13日（木）13:00～15:00

場所：2F 会議室

参加者 13人

（子ども7人 施設関係者6人）

指導者：永野むつみ 大沢直 綿貫のぼら 宇野京子

ワークショップの内容

- ・3分間人形劇「ダンスが好きな女の子」
- ・様々な材料を使って生き物をつくる ・見せ合い交流

始めの人形劇、一枚の紙を切り抜きながらお話を進めてダンスしたたくさん女の子が現れた。紙を切り落とすと「ごみ箱でやれば」と声を出す女の子、よく見ていた。いろいろな色の材料に迷いながら、幼児も保育士と一緒に楽しそうに作っていた。親しげに声もかけてきた。永野さんの切り絵にとっても興味を持った子が、自分でも紙を折って切り絵をした。褒められて嬉しそうに何枚も壁に貼ってもらい、みんなに見てもらい満足気だった。出来上がった作品をみんなの前で紹介しあい、作品をちゃんと説明することができて、うれしそうだった。手回しオルゴールに興味を示して自分でも積極的に回している姿があった。

子どもの声

・自分できりぬいたのが楽しかったし、自分で作るのも楽しかった。オルゴールひかせてくれたのしかかった！
・隣の女の子がいっぱい笑ってつられて、笑った。普段しない工作だったので面白かった。
・初めての封筒を使った人形作りは、とても新鮮で楽しく面白かった。自分にとって良い経験になった。

施設関係者の声

- ・普段は、ここまでとか、材料もこれだけとかだが、材料をいくらでも使って自分の世界を表現できるのは、とても楽しかったと思う。
- ・参加した全員が作品を完成することができた。成功体験につながった。
- ・楽しく交流できていい刺激になった。自分の作品を大勢の前で褒められ、うれしそうなのが印象的だった。



7. 君津児童相談所「ダンスワークショップ」

日時：2022年10月18日（火）13:30～15:30

場所：2F 会議室

参加者 21人

（子ども12人 施設関係者9人）

指導者：安西真幸 安西千紗 白鳥みゆき 棚田純子

ワークショップの内容

体ほぐしいろいろ
「ジャンボリーミッキー」で踊ろう J SOUL BROTHERS
「ラタタ」の曲に合わせてダンスを作ろう

男子。ストレッチで両足持ってV字バランス、真剣。背面四つん這いで歩く、まあちゃんが「いい!いい!」と褒めると、本当にうれしそうな笑顔。妖怪ダンス、動きをイメージして、妖怪ポーズ、筋肉マンポーズ、肉球でトントンのポーズができた。「これで終わりです。」「えー!あと5時間やりたーい!」。2人が側転を披露。/女子。よく弾んで止まらない。「ジャンボリーミッキー」の曲に「知ってるー。」と踊りだした。「ダンス作ろう!」という「つくるー!」と積極的。考えがいくつか出て「相談しよう!」と相談が始まる。観音スタイルでジャンプしながら回った。顔にハロウィンのシールを貼って、気分もルンルンに躍った。はじけるような笑顔は満足感に溢れていた。

子どもの声

- ・自分はダンスはきらい、上手に踊れないから。でも、今回上手に踊れはしなかったけど、楽しく感じた。これからはダンスも少し興味を持って好きになろうと思った。
- ・今日はじぶんでうたをつくった。うんどうをしたり、おどってみたり、たのしかった。またやりたい。
- ・つかれたけどたのしかった。いろいろなダンスをやってきぶんがよかった。

施設関係者の声

- ・ダンスを笑顔で踊っていた。みんなに拍手をされたり、ほめられる経験は、子どもたちの自己肯定感を高めるものになったと思う。
- ・仲間とのコミュニケーションがつけられ、終了後も「楽しかった」等、肯定的な言葉が多く見られたり、表情が普段より明るく感じた。



8. 千葉市児童相談所(千葉市東部)「ダンスワークショップ」

日時：2022年11月21日（月）9:30～11:30

場所：スポーツルーム

参加者 44人

（子ども41人 施設関係者3人）

指導者：安西真幸 安西千紗 綿貫のばら 大塚るい

ワークショップの内容

体ほぐし(両手を上げてジャンプ・ケンケン・手足付けて四つんばいで歩く)ダンス(ハビットジャンボリーミッキー)

低学年は部屋に入ってくるなり何か楽しそうだな、いつもとは違うな、という気持ちがあふれていた。体ほぐしを元気いっぱいやった。すぐリズムにのれる、運動神経のすごい子がいた。「ジャンボリーミッキー」の曲に合わせて、ミッキーの耳は、手がパーでなくグーだよと自分なりに考えた。男子はオープンで楽しそう。指導者が一人一人に声かけすると、とてもうれしそう。先生のそばをはなれなかった子が、少しずつ覚えていて、最後には初めから最後まで踊ることができた。女子にダンスの好きな子がいて「見て!」と言わんばかりに、だんだん弾けていった。感情も解放され楽しんでいた。丁寧に覚えてから動く子、一生懸命に動いている子等、その子のペースでダンスをした。

子どもの声

- ・ストレッチは、これからも続けていけたら良いなと思っている。
- ・たくさん体を動かせた。息抜きできてとても良かった。楽しいダンスがたくさんできて、うれしかった。
- ・いっぱい動いたおかげでご飯をいっぱいおいしく食べられてうれしかった。

施設関係者の声

- ・苦手な子に対しても肯定的な声かけをしたことで、やる気になっていた。
- ・体を動かすことで心が楽しくなることに気づけている子が多かった。継続していく事でこういった感覚(自己肯定感)を味わえるようになると思う。



9. (社福)大成会障害児入所施設不二学園「みて!きいて!つくってあそぼう!」

日時：2022年8月6日(土) 9:00 ~11:00

場所：食堂ステージ

参加者 13人

(子ども10人 施設関係者3人)

指導者：飯野真子 松本祐子 清水裕美子 廣瀬節子

ワークショップの内容

エプロンシアター「金のおの銀のお」
大型絵本「お化けのてんぷら」仕掛け絵本「ほしい」
紙コップ工作「けん玉」「フリスビー」「パクパク人形」

導入の手遊びで声を出してリズムをとる子がいて、みんなで遊ぶ雰囲気になった。話を知っている子が内容を先に言っても、みんな話に入り込んでいて、数人が同時に周りを見たり、思わず声が出たりと、心が動いている様子がうかがえました。工作では3種類を自由に選び、興味あるものをじっくり作った。たこ足フリスビーを向日葵の様な色を塗る子や、恐竜やヘビなどを作り、褒められて「簡単だよ」と言って思い付いたものを形にする子など、皆思い思いに楽しんでいました。紙コップに色々な職員の顔を描いて楽しんでいたりした子もいた。



子どもの声

・ありがとうございます。また今度来てね。
・もっと工作やりたかった。
・「今度はいつくるの？」
・終わる時間に近づいてくると、「もう終わり?」「もう帰っちゃう?」と言っていた。
アンケート用紙には、1人1人一生懸命絵を書いてくれた。

施設関係者の声

・子どもたちも夢中になって絵本や工作などを行い、自ら積極的に動く姿も見られた。
・終わってからも、自分で作ったもので遊んだり、自分なりにオリジナルのものを作ったりと、工夫している姿が見られた。
・当日参加できなかった女子寮の児童も、いただいた制作物や材料で楽しそうに遊んだ。夏休みの楽しい余暇の1つになった。
・大変喜び、次は何を作るのか楽しみにしている。「大きい本をやってみたい」「エプロンシアターやってみたい」の声が出たので体験させてほしい。

10. (社福)翠燿会放課後等デイサービスグリーンヒルキッズ「みんなで踊ろうロックソーラン」

日時：2022年8月23日(火) 13:15 ~15:15

場所：八千代市ふれあいプラザ体育館

参加者 31人

(子ども22人 施設関係者9人)

指導者：野村圭子 小野孝子 棚田純子 杉山三香子

ワークショップの内容

指導者の踊り披露
柔軟体操 踊ってみよう
みんなで半纏を着て踊りの完成!



「踊るの?ぼくやんないよ」という子がいたが、指導者の踊りをみて拍手し「なんか僕にもできそう」と笑顔が出た。「足を開いて構え」から始まった。指導者が子どもたちの中に入ってソーランの振り付けを一つ一つやってみせると、一緒に踊っている友達も見ながらどんどん動きを覚え「難しいけど楽しい」と笑顔で話した。「完璧に上手にはないよ、楽しく踊るのが大事!」と指導者の言葉に緊張せず楽しそうに踊ることができた。最後に指導者が用意してくれたソーラン用の半纏を着てみんなで「総踊り」。半纏がうれしそう。満足した表情の子どもたちが施設のスタッフの皆さんと「がんばったね」と言い合っていた。



施設関係者の声

・振り付けを丁寧に教えてくださったこと、終わったあとに拍手があったことにより、子どもたちの自己肯定感の向上があったと思う。
・自然と笑顔になっていた子が多くみられた。
・汗だくになって踊った満足感はいい思い出になった。
・身体を動かすことが苦手な子どもも、テンポよくリズムカルな音楽にのせられて達成感をもつことができた。

子どもの声

・長半纏を着て踊れたのが嬉しかった。
・踊りを教えてもらったのがうれしい。

11. (社福)児童愛護会児童養護施設一宮学園「からだをつかっていっしょにあそぼう」

日時：2022年10月2日(日) 13:30~15:30

場所：所庭&体育館

参加者 22人

(子ども14人 施設関係者8人)

指導者：大潤弘幸 岡本 圭 棚田純子 鈴木佳子

ワークショップの内容

色おに 震源地はどこだ なり
きりかくれんぼ むかしあそび
(こま けん玉 お手玉)



外で元気に遊んでから体育館に集まってきた。色おに、「ピンク!」と鬼がいうとキャーキャー言いながら一斉に走り探す。「もじゃもじゃ!」という若い男の先生の頭をみんなで指さし大笑い!「シマシマ」は、見過ごしそうなほど細いものを見つけ、大潤さんに「ナイス シマシマ!」と褒められて誇らしげ。どんどん引き込まれ屈託なく遊び、笑った。震源地はどこかは上手にだます作戦で協力し目線で合図し芝居をした。「なりきりかくれんぼ」で自由の女神やお地藏さんになりきった。こまの得意な子、線香花火もやって「おれ、うまくねー」と笑顔。こつがわからない男子はひもを巻くのもむずかしい。何回もすぐほどこけてうまいかない。顎に涙の粒、泣きながらもあきらめない。大潤さんが手を添えて教え、やってみるとやっとならった!先生や友達がみんなが拍手!「やったねー!!」恥ずかしそうな笑顔だった。

子どもの声

- ・けいちゃんにこまをおしえてもらってじょうたつした。
- ・とてもたのしかった。けん玉をこれからじょうたつしたい。
- ・とてもたのしかった。またきてください。
- ・こまが くやしかったけど、はじめてせんこう花火ができた。

施設関係者の声

コマ回しを最後まで頑張っていた子が最後にできたときの表情が初めて見る表情だった。友だち同志コミュニケーションをとる場面があった
昨年の時の様にこれからも日常的に遊ぶことがあると思う、今年のクリスマスプレゼントはコマにしようかと思う。

12. 放課後等デイサービス アフタースクールセンターむぎ畑 「秋のクラフトタイム★遊ぼう!飾ろう!」

日時：2022年10月7日(金) 13:00~15:00

場所：活動室

参加者 12人

(子ども6人 施設関係者6人)

指導者：大塚るい 荒居文子 大越舞美 白鳥みゆき

ワークショップの内容

くるくるレインボー
ストロー輪ゴム鉄砲
スタンドグラス風切り絵



ポスターを見て当日をととても楽しみにしていたと、準備の時に子どもたちが話していた。初めて体験する子は、ひとつ作るごとに満足そうで次々と作っていた。昨年度も経験していた子は、落ち着いており、作ったことがないものについては慎重に丁寧に作成していた。全員が同じものを作っているの、記名しようということになり、その方法は年長者の子どもが、低学年の子どもに教え、手伝う姿がみられた。作り終えてから完成品を見せ合い、遊びあい、協力し合い、よい雰囲気でも過ごせていた。

子どもの声

- ・ピストル よかった
- ・色々作れて楽しかったとよかったなど心の中で考えてとどろめいていて感謝の気持ちでいっぱい。また来年まで楽しみにしています。
- ・この経験をいかして、今後がんばりたいです。

施設関係者の声

・1つでも自分の満足いくものを作れたという経験や、普段できないような工作でアレンジができたり、生活に反映できると、QOLも(工作好きの子)上がると感じる。また、作品作りの途中で助け合いも見られた。個人だけでなく、うまくできた子は、他の子をサポートしてあげられる。そんなチームワークも促しひとつで培われていくのだと感じた。
・工作が難しいと感じた子にも丁寧に教えてくれたので「できない!」となる子がいなかった。それは自己肯定感につながると感じた。

13. (社福)チルドレン・パラダイス児童養護施設子山ホーム 「体をつかっていっしょにあそぼう」

日時：2022年10月30日(日)13:00~15:00

場所：集会室&戸外

参加者 21人

(子ども15人 施設関係者5人)

指導者：大潤弘幸 森恭次郎 綿貫のぼら 白鳥みゆき

ワークショップの内容

色おに・震源地はだ・かくれんぼ・なりきりかくれんぼ・玉入れ・しっぽとり・靴とばし 借り物競争・けいどろ

「震源地ゲーム」、大潤君が鬼を見つけられず「うまいなあ!」と言うと、鬼の子は「おれが、うまい!」と自信満々で手を挙げた。「なりきりかくれんぼ」は、「このピアノの椅子、戻らないおかしい!」「この壁お尻があるぞ!」という大潤さんの言葉に子どもたちはドキドキワクワクした。その後、戸外で思い切り遊んだ。新聞紙のしっぽをズボンの後ろに挟み「しっぽとり」。「お前のしっぽ短いな!」とか前後にしっぽをつけている子もいた。取られた子はしっぽ屋さんに「しっぽを1本くださいな!」ともらい、すぐ参加。「けいどろ」はルールも自分たちで決めた。鬼になれず大泣きしている低学年男子に声をかけた中学生女子のほほえましい姿。子どもたちのパワーは終始すごかった。

子どもの声

・楽しかった多数/かくれんぼがたのしかった/ケードロ、くつとばしがたのしかった/
・あそんでくれてありがとう/最初から最後までたのしかった/またきてあそんでください

施設関係者の声

・遊びの中で、子どもたちが自己肯定感をくすぐられるようなやり取りが見られ、私たちも遊びに取り入れたい。かくれんぼが衝撃的でやり方を変えるとここまで面白くなるんだと感銘を受けた。
・翌日「きょうも面白い人くる?」と聞かれ、この体験がいかに楽しかったかを物語っている。
・応援して下さる方々との触れ合いは、社会の一員としての自分の存在を再認識できる貴重な機会となる。定期的に行っていたいただきたい。



14. (特)いちかわ市民文化ネットワーク放課後等デイサービス・ハクナマタタ 「革のアクセサリを作ろう!」

日時：2022年11月14日(火)13:15 ~15:15

場所：活動ルーム

参加者 16人

(子ども11人 施設関係者5人)

指導者：井澤 智子 楠 千枝子 北川 妙子 斯波 優江

ワークショップの内容

革の説明
革でいろいろなアクセサリを作る

作るものを決めてきていたり、主張がある子が多く、できたという満足そうな表情が沢山あった。参加が3回目の子もいるし、初めての子もいたが、各々が楽しめていた。こだわりが色々(穴開けるのが嫌、初対面が苦手、やりたいがいつもと違う環境が嫌など)あったが、自由度があり、イメージがしっかりあり、細かいアイデアがあって意欲的に製作していた。複数作った子も多かった。男の子が「家族のためにお花を作る」と目的を持っていたり、素敵なデザインでアートな作品が沢山できた。完成したものをみんなで見せ合いで、紹介したら、褒めてもらって拍手されてうれしそうだった。

子どもの声

・楽しかった
・ブタの革 びっくりした。
・ウー、うーたん、げんき、げんき。
・また、つぎもやりたい。
・くまつくりました。
・ミッキーがうれしかった。おもしろかった。

施設関係者の声

・出来上がった作品を持ち帰るだけでなく発表しみんなに見てもらい拍手を受けたことで自己肯定感が得られたと思う。
・自由な発想を肯定して一緒に作業をしてもらって満足している様子を見ることができた。
・作品について話してくれているときの子どもたちの表情がとても生き生きしていた。子どもの自己肯定感や生活のQOLにつながったと思う。



15. 特定非営利活動法人みのり福祉会 児童デイサービスそら「クリスマス工作」

日時：2022年12月10日（土）13:00～15:00

場所：2F

参加者 15人

（子ども12人 施設関係者3人）

指導者：加川きみ子 北野美子 梶原留理子 市川淑江

ワークショップの内容

クリスマスツリー

折り紙のリース

ミサンガ

指導者の名札を見て、一人一人の名前を読んで挨拶した子がいた。工作紹介の後「ハイ!」と手を上げ「ツリーを作りたい」「リースがいいです。」など積極的に作りたいものを決めた。折り紙リース作りは、好きな色の折り紙を選び、配色を考えて折った。「折り紙は好きな?」と聞かれ「簡単にできる。」と楽しそうに答えた。アニメの歌を歌いながらミサンガをリラックスして楽しそうに作成。「かわいいツリーができた。」「シールをここに貼る。」と指導者と親しく話した。キャラクターのシールが人気で「これ貰ってもいい?」「いいよ。」「さっき、勝手に持って行ったから返すね。」と話ながら分け合っていた。最後に子どもたちが「楽しかったです。」「また作りたい。」「また来てください。」など感想を発表、皆で拍手し喜び合った。

子どもの声

・シールをたくさん貼った。・ミサンガ作ってがんばった。・楽しかった。・かんたんだった。シールぜんぶはれた。ひもをとおすのをやった。リボンがむすぶのがむずかしかった。・クリスマスリースを作ってかんせいした。・ミサンガをつくった。たのしかった。じょうずにできた。・みんなありがとう。

施設関係者の声

・工作があまり得意ではない子が、楽しそうに工作に取り組んでいた。
・いつもの職員ではなく、来て頂いた指導者の方に作った作品を褒めて頂いたことで、自信となって、楽しく取り組んでいたと思う。また、やりたい!と言っている子もいた。



2022年12月10日



2022年12月10日



2022年12月10日

16. (社福)一粒会児童養護施設野の花の家「からだをつかっていっしょにあそぼう」

日時：2022年12月11日（日）13:30～15:30

場所：ホール

参加者 27人

（子ども15人 施設関係者10人）

指導者：大潤弘幸 岡本圭 鈴木佳子 宇野京子

ワークショップの内容

コミュニケーションゲーム(いろいろおに 震源地 なりきりかくれんぼ)

伝承あそび(紙コップけん玉 お手玉 こままわし)

伝承あそび(紙コップけん玉 お手玉 こままわし)

震源地を子どもが「チンゲン菜?」と言って、大潤さん大うけ。4年生女子元気が良い。大潤さんが「もう少し遊んで良い?」と聞くと「チャー!」と叫び声をあげて喜ぶ。外からの訪問にテンションがあがっているのか。「リーダーは誰?」さっとポーズを変えて上手だが「あーん、いたい」思わず声を出し、ばれた。「かくれんぼします」に、「さー!」と大きな声を出して喜んだ男の子。かくれんぼ、好きなんだなあ。カーテンの裏やピアノの下に隠れたり、お地藏さんになった。「も一回も一回」とリクエスト。床に寝転びオットセイ、壁に張り付いてポスター、1時間はあっという間。紙コップけん玉、三つもらった紙コップを自分で考え、个性的にくっつけた。

子どもの声

・たのしかった。しんげんちげーむ。みんなだいすき。・こまやってたのしかったよ。かくれんぼやってたのしかったよ。・けんだまがつくれてうれしかった。またやりたい。・一番心に残ったのはこままわし。できなくてくせんしてたけどさいごにはじょうずにできてうれしかった。

施設関係者の声

・始め乗り気でなかった子が、途中から誰よりも楽しむ姿を見た時は、うれしかった。
・大人が童心に戻って楽しんだ。やはり楽しいこと、「あそび」っていいですね。早くコロナが落ち着いてもっと楽しく心がワクワクするようなことを制限をかけずにできる日が来ることを願うばかり。



2022/12/11



2022/12/11



2022/12/11

17. (社福)鳳雄会児童養護施設 ほうゆうキッズホーム

「おはなしつくろう!工作しよう!」

日時：2022年12月27日(火)13:30~15:30

場所：地域交流室

参加者 26人

(子ども19人 施設関係者7人)

指導者：大崎あけみ 岡田泰子 大塚るい 宇野京子

ワークショップの内容

絵本「よみきかせ「どうぶつサーカス」かみ芝居「ねずみちようじゃ」幼児向け「こっこお婆さんのレストラン」

ふうとうかみ芝居づくり

リース パクパク人形 ビーズのストラップ ビー玉万華鏡

絵本「よみきかせ」、紙芝居は子どもたちはじーっとみたり、絵本「どうぶつサーカス」で「皆さんおおきな拍手をしてください」と読むと、反応して大きな拍手が出た。ふうとう紙芝居作り、1枚目のイメージができるまで、じーっと考えたり、自問自答したり、かなり長い時間をかけた。講師が「1枚目に全部のことを描かなくていいんだよ。2枚目、3枚目でお話つくってもおもしろいね!」と少しヒントを出すと「クリスマスの夜」「昆虫」「ロボット」などをイメージして、どんどんシールを貼ったり、描いたりして。ストーリーを話してくれた。

子どもの声

- ・キーホルダーがむずかしいと言っていたけど、かんたんでした。
- ・ビーズのやつなど、様々な工作ができて楽しかった。特に紙芝居のやつとかが楽しかった。
- ・ホームに来てからこうゆうことをしたことが、無かったから、とても楽しかったから、またしたい。

施設関係者の声

自分たちで考え、工作をし、個性を出すことができていた。そのため、工作教室の方や施設職員からも、大いにほめられ喜ぶ姿が見られた。自己肯定感や生活のQOL向上したと思う。コロナで子ども同士の遊びが制限されていた中で、ストレスを発散する機会になった。普段あまり関わりを持たない施設職員やボランティアの方々と接することができた。



18. 児童発達支援事業所 結「ふわふわどうぶつさんとあそぼう!」

日時：2023年2月13日(月)9:00~11:00

場所：保育室

参加者 12人

(子ども7人 施設関係者5人)

指導者：加形ふみ子 宮下佳子 買場都明 斯波優江

ワークショップの内容

お人形さんとあそぼう

パネルシアター

ふわふわどうぶつ工作

2歳から6歳の障害のある子どもたちの施設。人形を手に挨拶すると、初めて会う子ども達も興味津々、一気に距離が縮まった。袋からお人形が出てくると自分から動かして遊んだ。パネルシアターでは歌ったり踊ったりと元気いっぱい。好きな動物やキャラクターが出てくると発語や拍手でノリノリ。体全体で楽しい!を表すが一人ひとり違って個性的だ。風船工作では自分で考えながら指先を使う。笑顔が返ると周りはとても幸せな気持ちになった。ブタにシールを貼るたびに指導者が「あらかわいい!!」と言うと一緒に「あらかわいい!!」と言ってニコニコしていたのが印象的だった。

施設関係者の声

- ・目で見て、耳で聞いて、体全体で「楽しい」気持ちを表現している姿にうれしく思った。
- ・音楽やリズムにのること、楽しむことは子どもの向上につながっていると思う。
- ・風船での作製では、シールを自分で考えて貼れている子もあり、とても大切なことだと改めて感じた。パネルシアターでも色々な動物やキャラクターが登場するため楽しく、音楽性もあり、発語を促すことが出来ていると感じ、子ども達の成長に欠かせない活動だったと思う。



今年度の取り組み経過概要 ～コロナ禍3年目で～

- ① 計画した18か所のうち、実施を切望していた病院がコロナ禍の状況から、実施直前に外部の入室ができなくなって中止したりと、残念ながら今年度も病院7か所が実施できなかった。そこで昨年の経験からQOLや自己肯定感の向上の機会が必要と思われる児童福祉施設での実施を考え、放課後等デイサービスや養護施設で実施した。しかし、コロナ感染予防対策で外からの入室の人数制限継続のため、団体協力者を減らし工夫することを余儀なくされた。新しく声をかけたところも、閉鎖感のある子どもたちへ芸術文化による交流あそびはQOL向上に効果的であると、評価された。この事業の必要性をますます実感した。
- ② 当団体ではコロナ感染防止対策のガイドラインを作成し、事業実施7日前から健康チェックシートで、指導者・スタッフの健康チェックをして臨んだ。また、各施設のガイドラインに基づき、感染防止対策の徹底をし、安心と安全を可能な限り保証することを心がけた。

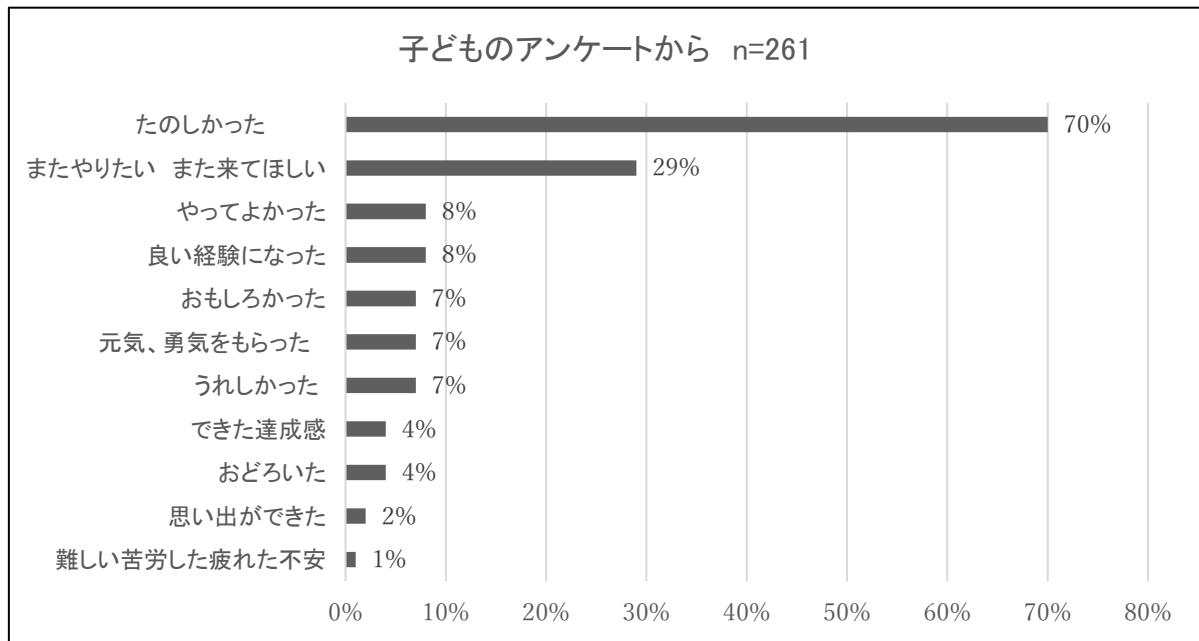
事業の成果と課題

- ① 普段の生活の課題とニーズを把握し指導者を選び、遊びや体験ワークショップを提供した。コロナ禍で病院での実施が予定通りにはかなわず、自己肯定感の向上を必要とする実施個所を挙げ、1病院7児童相談所5児童養護施設4放課後等デイサービス1児童発達支援施設で計18回実施し、465人（子ども345人 大人120人）が参加した。 [15年間の実施実績：12病院 32施設 延べ232回 9,786人参加]
- ② 長期入院の子どもたちにとって、材料を自由に使って工作する機会は新鮮で、ワクワクしていた。地域の指導者と話したり、友達と協力したり、互いの作品を見て褒めたり褒められたりすることで自己肯定感が向上したと思える笑顔がたくさん見られた。病気の治療にも前向きになる活動であり、実施できなかった病院では、残念だとの声が高かった。
- ③ 県内にあるすべての児童相談所7施設に今年も届けられた。毎年実施を待ち望むほど信頼を得ていて、保護児童にとって施設外の大人と過ごすかけがえのない時間となっている。本物のプロの芸術に触れて目を輝かせて楽しむ姿から、職員も元気をもらっているという。養護施設では、日曜や長期の休みの日に実施して特別な一日を作った。会場に入ってくるなりやる気満々。コロナ禍で集団で遊ぶこともなくなっている中、「今日は遊ぶよ」と思いっきり心が解放できた。
- ④ 子どもたちにとって、プロの芸術家や地域のあそびの専門家の指導者による質の高いアート体験や遊びの交流の中で、思い思いの工夫や表現を受け入れて褒めてもらったことが、達成感や自信となり自己肯定感を高めた。そして、もっとやりたいという意欲につながり、可能性を広げていた。施設からは、この活動を定期的に継続することが自己肯定感を高めることにつながると期待されている。
- ⑤ この事業は、指導者と施設職員をつなぐコーディネーターの役割が重要である。子どもたちの様子に合わせて、プログラミングすることに心がけた。当日は、協力者も参加し、子どもたち一人一人とコミュニケーションをとり、子ども達と大人と一緒に笑顔になっていた。



【コーディネーター】 市川淑江 宇野京子 越後久美子 大塚るい 大森智恵子 岡田泰子 買場都明
加藤香都代 笠原直子 桑原信子 椎名好子 塩沢千秋 白鳥みゆき 鈴木佳子
高橋知子 滝口淳子 棚田純子 多田優子 中川香子 中村雪江 中村幸恵
早川良美 綿貫のぼら

◆資料1 子どものアンケートの自由記述から見た子どもの気持ち (261枚 複数記述)



●「たのしかった」の内容は様々

「〇〇がたのしかった」と、プログラム名を書いたのが一番多く、「ぜんぶたのしかった」「いろいろあそべてたのしかった」「まるごとの一日たのしかった」「みんなで遊んでわらって楽しかった」「普段できないような体験ができて楽しかった」と、思いっきり遊んで心が解放されている様子が見える。

「自分の手で作ってたのしかった」「からだを動かすのがたのしかった」「とても新鮮で楽しかった」と、自分に気づきがあり、楽しんだあと「あの日からみんなと話せなかった私が、少しずつ自信を持てるようになりました。」とか「達成感につつまれて自分の良いところが見つかった気がします」と、自分の中で変化を感じた子もいた。そして、楽しかったので「またやりたい」「またみんなとあそびたい」「家でもやってみたい」「まっています」「思っていたよりも楽しかった。簡単だったので小さい子にも教えてあげたい」と、次への意欲と期待の気持ちが大きくなっていった。

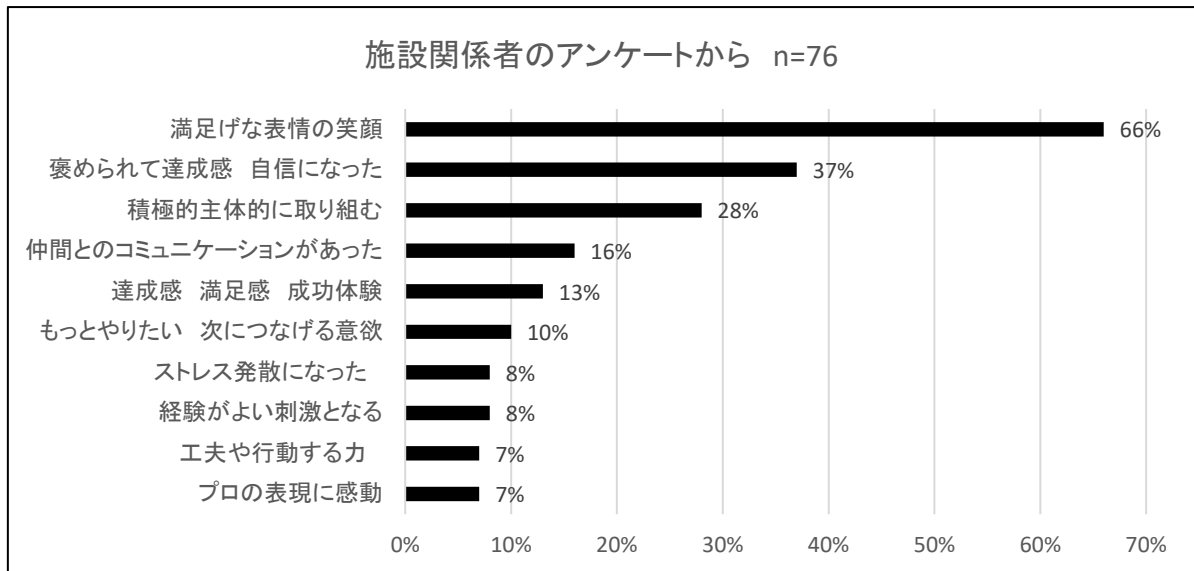
●人とふれあって前向きな気持ちになった

「うれしかった」「思い出ができた」の中に、「先生に褒めてもらえてめちゃめちゃうれしかった」「できなかったところができるようになってうれしかった。声をかけてくれたりして勇気もらって、がんばるぞーという気持ちになりました。」「やさしくおしえてくれたのでできたんだと思う。思い出になった。」と、初めて会った指導者とのふれあいが、子どもたちにとってかけがえのない機会になったことがわかる。

■18か所の子どもの自由記述からよみとり

楽しかった70%、うれしかった7%、面白かった7%と、この体験が子どもたちにとってどんなに楽しくうれしかったかが明らかです。またやりたい・また来てほしい29%と、意欲と期待感が高い。驚いた、満足した、勇気もらった、思い出ができたなど、子どもたちが自分の感情をそれぞれ言葉にしている。QOL向上や自己肯定感の向上などに貢献していることが見てとれる。また、疲れた、不安だったとの声もあり、何をするのか不安だったことなどが推察される。

◆資料 2 施設関係者のアンケートの自由記述から見た自己肯定感を感じたところ（76 枚 複数記述）



●満足そうな笑顔、主体的に夢中で取り組む様子がすべての施設で見られた

「いきいきした表情で全身で楽しんでいた」「たくさんの材料に興味津々で楽しそう」「のびのびと楽しんで参加していた」「大満足で盛り上がっていた」などの言葉が多くみられ、「限られたスペースで、様々な制約の中での生活なので、今日は思いっきり遊べて楽しそうだった。」と、職員のホッとする様子、一緒に遊んで子どもたちの普段見られない表情にも気づかされていた。

●褒められて達成感や自己肯定感が得られた

「たくさん肯定的な声掛けをしていただいたおかげでやる気になっていた」「個性を尊重して介入してくださり、自己肯定感は高まった」「グッド!と明るく褒められて笑顔になっていた」と、大人とのやり取りで個性を認められる場面が自己肯定感や生活の QOL 向上につながっていた。

また、「お互いの作品を見せ合い、褒めあう雰囲気ができた」「助け合いやチームワークも培われる」と、仲間とのコミュニケーションも楽しむ体験もできていた。

■施設関係者の自由記述アンケートから〈QOL 向上や自己肯定感の醸成を感じた記述〉

* 自己顕示が少ない子ども、制作物を職員にうれしそうに見せてくれたりと、新しい顔を見ることができた。抑圧してしまうことが多い環境ですが、「自由に好きなように」という環境の大切さが伝わります。

* ワークショップ中、みんなに拍手をされたり、ほめられる経験は、子どもたちの自己肯定感を高めるものになったと思います。

* あそびの中で、子どもたちが自己肯定感をくすぐられるようなやり取りが見られ、私たちも遊びに取り入れたい。かくれんぼが衝撃的でやり方を変えるところまで面白くなるんだと感銘を受けた。

* 仲間とのコミュニケーションがつかれ、終了後も「楽しかった」等、肯定的な言葉が多く見られたことや、表情が普段より明るく感じました。

■18 か所の施設関係者の自由記述からよみとり

子どもの満足げな表情の笑顔 66%、積極的主体的に取り組む姿 28%と、一人ひとりの多彩な子どもの感情や表現、内面の変化がよく見えていた。子どもと一緒に楽しむことで普段と違う角度からの発見もとらえていた。褒められて達成感自信になった 37%、仲間とのコミュニケーション 16%も生まれ、指導者とのふれあい経験が達成感満足感や成功体験につながり、次への意欲に変化する様子を認識していた。

令和4年度文化芸術による事業に関する
特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
新型コロナウイルス感染防止ガイドライン
(笑顔の贈りもの事業版)

文化芸術による事業を進めるにあたり、新型コロナウイルス感染拡大予防対策として、常に子どもの心身に影響を及ぼさないよう「子どもの最善の利益」を視点におき、とりくむことをガイドラインにまとめました。

1 子ども劇場千葉県センター組織としてとりくむこと

- ・集まる機会、人数を少なくし、施設の定員1/2までとします。発熱のある方、体調不良の方利用、入場を遠慮してもらいます。
- ・施設利用中、出席者はマスク着用の上、距離をとり、換気を行い3密（密閉、密集、密接）にならないよう留意します。
- ・出席者に対し、手洗い・消毒を行い、大声の会話を慎むようよびかけます。
- ・複数の人が使用するトイレ、洗面所、お茶道具をこまめに消毒、洗浄します。
- ・配布物は手渡しを行わず、据え置く方法で行います。
- ・事務局職員、役員は出勤前に検温、新型コロナウイルス感染症状の有無を確認し、体調不良の時は、休養を促し、自宅待機とします。
- ・施設内のゴミの処理、廃棄を徹底します。
- ・外部施設の利用、事業を進めるにあたり、管理する自治体や施設のガイドラインに対応していきます。

2 文化芸術による事業における新型コロナウイルス感染防止のとりくみ

- ・事業実施にあたっては、本ガイドラインそって適切に対応します。
また、施設のガイドラインにも柔軟に対応します。
- ・施設に配置するコーディネーターは実施に関わる指導者、スタッフの健康管理を「健康チェックシート」で確認してから活動を開始します。新型コロナウイルス感染症状の有無を確認し、体調不良の時は、自宅待機とします。
- ・コーディネーター、指導者、スタッフはマスク着用して行動します。
- ・コーディネーターは、実施会場へ消毒液、除菌シートを用意して持参し、対応します。
- ・ワークショップ会場と指導者控室の換気に努めます。
- ・ワークショップ会場での参加者同士の距離のとり方や大きな声の発声などは、指導者と内容を確認したものを施設との事前打ち合わせで示していきます。
- ・コーディネーターは指導者とスタッフの健康状態を施設担当者と確認後、会場への入場をはじめます。（1週間の健康チェックシート）
- ・ワークショップ中に使用する機材、用具、教材の扱いは不特定多数の共有を制限するよう配慮します。
- ・「アンケート」・パンフレット等は手渡し配布を避けます。

令和4年度子どもゆめ基金
「病院や児童福祉施設の子どもたちが自己肯定感を高める
あそび・交流ワークショップ体験」報告書

発行日 : 2023年 3月13日

発行者 : 特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

発行所 : 特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

〒260-0031 千葉市中央区新千葉 2-17-6 サンコート新千葉 102号

TEL : 043-301-7262 FAX : 043-301-7263

メールアドレス : kidchiba@lily.ocn.ne.jp

この報告書の内容を無断で引用・転載することはかたくお断りいたします

 National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

体験の風を
おこそう

病院児童福祉施設で過
ごす子どもが笑顔にな
る贈り物事業 2022